

東 都 大 学 図 書 館

通信 幕張キャンパス 第5号

【編集】 幕張分館司書 井本紗織
【編集協力】 幕張分館図書館運営委員会
看護学科……内田雅代・堀之内若名
理学療法学科…舟橋久幸・平野康之

Contents

- 巻頭言
……幕張分館長 舟橋久幸
- 精神的流れの中での濫澤龍彦論
……看護学科 教授 櫻庭繁
- 図書館からのお知らせ
学生図書リクエスト 受付中！

巻頭言

『一番良い本』に出会える場

幕張分館長 舟橋久幸

令和2年度より東都大学幕張ヒューマンケア学部幕張分館長を拝命しました理学療法学科の舟橋久幸です。恥ずかしながら、小・中・高では本が嫌いで、“本の虫”であったという母親からはひたすら逃げ回っており、図書館と言えば、小学6年次に掃除当番で出入りした記憶しかありません。そんな私ですが、今では図書館の棚と棚の間のあの狭い空間に身を置くととても落ち着きます。

大学で教鞭をとって21年になりますが、ときどき学生さんから受ける質問があります。私の担当科目の教科書で『一番良い本』はどれですか、というお尋ねです。私はさしあたって分かり易いと思われる本を数冊紹介しつつ、「どれ一冊を選ぶのは難しいですね。これらの中にあなたにとって『一番良い本』があるとも限りません。まずは、あなたが今抱えている問題点を図書館へ行ってしらべてみてください。複数の本をあたった結果、その問題点を解決に導いてくれた本が今のあなたにとって『一番良い本』です。」と応えておりました。時間が許せば関連図書の所在も案内しておりました。

先述のように子どもの頃は図書館とはほとんど無縁の私でしたが、大学に入って一変しました。不明な点が生じると、真っ先に図書館に足を運ぶのが習慣になっておりました。図書館で予想外のものの捉え方に気づかされ、視界が一気に広がるような経験を何度も重ねたことが変化のきっかけです。また、関連図書を片端から紐解いてみますと、なぜか記載がないと感じた点が然るべき理由があって解明に至っていないため記載がないと判明したこともたびたびあり、それは物事を先に進める上で欠かせない実に有り難い情報でした。さらに、時には、目的もなく入館して何気なく手にとった本が、殊の外、理解し易かったりもしました。巷の書店に出かけて行っても良いのですが、書店に並んでいるのは新刊本が中心です。一方、上記のような気づきを私に与えてくれた本には、すでに書店に在庫はなく、絶版になっているものも少なからずありました。

この経験は、専門書を通じて得られたものであり、限られた範囲の出来事にすぎません。ただ、私の拙い経験からも、大学図書館が「今の自分が求めている『一番良い本』に出会える場」となりうることは明らかです。幕張分館図書館も、是非、そのような場でありたいと願っています。

周知の通り、現在、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から図書館利用にも制限がかかっているところではありますが、幕張分館図書館運営委員会の先生方と司書さんとともに、より良い図書館を構築するため頑張っております。よろしくお願いいたします。

精神的流れの中での澁澤龍彦論

看護学科 教授 櫻庭繁

澁澤龍彦(本名龍雄)は1928(昭和3)年埼玉県深谷市に生まれた。親族に新一万円札の肖像画にもなる渋沢栄一がおり、渋沢財閥の一族の出身であることは龍彦自らが自叙伝等多くの文筆活動の中で記している。敷地は広大で、バス停3カ所にまたがり、地元の人々からは「大渋沢(おおしぶさわ)」と呼ばれ尊崇を集めていた。この実家をバックボーンとして、龍彦は何不自由ない幼年期を過ごした。しかし、この大渋沢の家は戦後人手に渡っている。渋沢一族について知るには城山三郎著『雄気堂々』を読むのが近道であろう。

龍彦の父親は家族思いの厳たる銀行員であった。子供たちに厳格な一方で千葉県大原の海岸へ家族と共に避暑に行くなど愛情こまやかな人物だったようである。母親は東京白金の聖心女学院を卒業しており、その良妻賢母ぶりと美貌は衆目の認めるところでもあった。龍彦にとっても自慢の母であり、小学上級生頃まで母親と銀座を散歩することを喜び、そのうれしき、誇らしさを友人にもたびたび語っていた。自身の妹たちにも“俺は幼児期母親に溺愛された”と自慢していたという。しかし、母親自身は理性的なタイプで、龍彦を溺愛した説は否定している。

そんな中で龍彦は自然と母親に対する信頼や愛情を強く感じると同時に、それが奪われることへの恐怖や母親への愛情の根源について思いを致すことが多くなったようで、後の文筆活動ではエディプス・コンプレックスに対して数多く言及している。エディプス・コンプレックスとは精神分析の用語で、ギリシア神話のエディプス王の悲劇的運命になぞらえた言葉である。神話によればエディプス王は、父親を殺害して母親と結婚するという運命を担っているが、男の子は3歳から6歳にかけて、エディプス王と同じように、父親に敵意を抱き、母親に対して愛情を求めようとする性的願望をもっているとみなされる。盟友でありその才能を認め合った三島由紀夫は「西欧思想にはあるが日本にはない」との立場から生涯エディプス・コンプレックスを否定し、認めることはなかった一方で、龍彦はフロイトの著作を熟読し自身の経験を踏まえた上で「日欧双方にエディプス思想はある」との見解をとり、特に『現代思想 総特集フロイト』(青土社、1977年)では巻頭言でエディプス・コンプレックスについて肯定派の論陣を張っている。

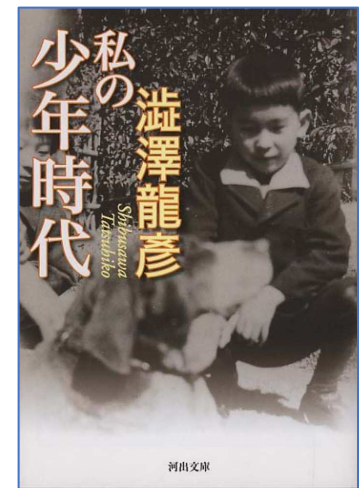


『現代思想』
1977年5月臨時増刊号(青土社)

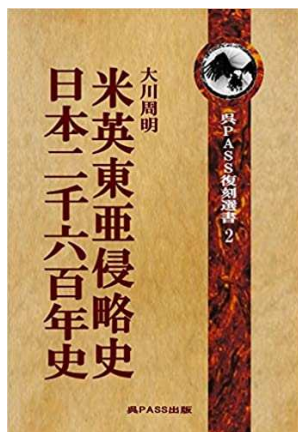
さて、龍彦は自己を振り返り、1945(昭和20)年以前と以後によって時代を二つに分けている。一つは子供時代、黄金時代であり、二つ目は昭和20年以後の「私が大人に」なった時代、自我を確立した時代である。その契機となった昭和20年より少し前、彼の旧制中学時代を見てみよう。太平洋戦争が勃発した1941年、龍彦は東京府立第五中学に入学する。軍国主義が台頭してきた時代であるが、ここで精神科に関係する人ならば誰でも一度は記憶するであろう奇人と出会う。この秀才校は日本で2番目にできた東京府立巣鴨病院という公立の精神科病院の前庭だった場所に建てられた。巣鴨病院には当時日本中にその名が知られていた“葦原将軍”が入院しており、生徒が校庭で体操をしているとふらりと病室から出てきて威勢のいい声で生徒たちに号令を放つので、それと体操の先生と号令が入り混じりどっちがどっちやら分からなくなってしまうという珍妙なエピソードが、この学校には残っている。龍彦自身もエッセイ「葦原将軍のいる学校」を記しているが、当時は癲癇病院(現在の精神科病院)と聞いていたが、そこの患者と中学生との関わりを伝えるこのエピソードには、当時の精神科医療および精神疾患を抱える人々が置かれた状況、そして社会からのまなざしが垣間見える。龍彦は、軍国主義の中にあっても中学校時代を精一杯楽しんでいたので、その様子はエッセイからも読み取ることができる。



城山三郎『雄気堂々(上巻)』
(新潮文庫刊)



澁澤龍彦『私の少年時代』
(河出文庫刊)



中学時代の龍彦は大変優秀で、しかも記憶力は抜群であったと周囲の友人は評価し、姉妹もこの兄を努力家で克己心の人であったと語っている。

戦争の長期化とともに「大渋沢」でも食糧事情は悪くなり、戦前の土地や建物、書画骨董は三井、三菱、安田財閥等と比べるとほとんどない状態であった。意外に思えるかもしれないが、この逸話からは日本銀行を設立した渋沢一族と他の大財閥と違いを読み取ることができる。龍彦も母親の着物や帯をリュックサックに背負い、農村に食糧を求めて出かけたり、学徒動員で機関車を整備する仕事につき、空襲の中家族とともに必死で逃げ惑いようやく一命をとりとめたといった経験をしたりするが、そんな中でも古本屋で大川周明の『米英東亜侵略史』を買い、その本の見返しに戦後の日本を予見した感想を記している。ただ、龍彦は自分を軍国少年でも反戦少年でもないと認識していたようである。

1950年、龍彦は東大仏文学科に入学した。ここから彼の作家としての活動が始まる。

大川周明『米英東亜侵略史』
(呉PASS出版)

【参考文献】

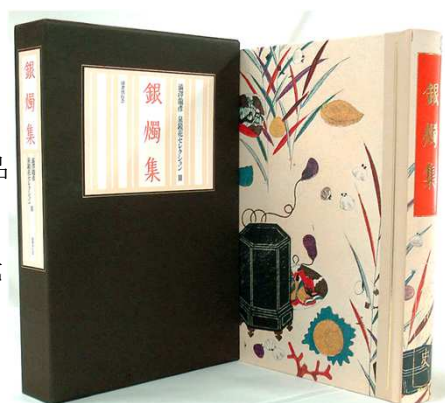
磯崎純一『龍彦親王航海記 澁澤龍彦伝』(白水社、2019年)

『現代思想』臨時増刊 第5巻6号(青土社、1977年)

小田晋『日本の狂気誌』(講談社、1998年)

澁澤龍彦(1928年-1987年) 小説家、フランス文学者、評論家、全627作品
明治の実業家、渋沢栄一の親類にあたり深谷市を代表する名家の豪邸で
過ごした様子は彼のエッセイから読み取ることができる。

1954年頃から龍彦の筆名を使用する。生前自らの名前が「竜」の字で代
用されるのを嫌っており、旧字を新字に直す慣例のある出版界でも珍しく、
いまだに名前の漢字全てが旧字体のまま出版されている。フランス
のマル・キド・サドの翻訳・紹介でも知られ、サディストという言葉の
元になった。人間のこれまで注目されなかった性の精神性や文明の暗黒場
面に光を当てる多彩な翻訳や作品を発表し、死後も多くの読者がいる。
2020年、泉鏡花の作品をリメイクした全集を刊行した。



『銀燭集』(澁澤龍彦 泉鏡花コレクション2、
国書刊行会)



～図書館からのお知らせ～

学生図書リクエスト 受付中!

こんな本が読みたい、勉強で使いたい本が図書館にない、気になるあの本は図書館にないのかな…普段そんなことを思ったことはありませんか。そんな声にお応えすべく、図書館に入れてほしい本を募集します。

普段図書館を利用する人もまだ利用したことがない人も、自分たちの意見で充実した図書館を作っていきましょう!

皆さんからのリクエスト、心からお待ちしています。

申込方法：リクエスト用紙を図書館に提出

または専用フォームから申込み

× 切：2020年12月25日(金)



↑リクエスト専用フォーム

※リクエストした本が必ず図書館に入るとは限りません。